

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

ヤマザクラ (*Prunus jamasakura*)

小池伸介 (東京農工大学農学部地域生態システム学科)

koikes@cc.tuat.ac.jp



写真-1 成熟した果実 (加藤元樹 撮影)

古くから日本人に親しまれてきた桜「サクラ」であるが、日本には9種のサクラが野生する¹⁾。そのうち、九州から本州中部の低山で最も目につくサクラは、日本の固有種であるヤマザクラである。桜の名所、奈良県の吉野山の桜もヤマザクラである。ヤマザクラは幹の直径が1mを、高さが10mを越えるまで成長する落葉高木で、巨樹になり、長寿な種である。陽樹であり、適潤またはやや乾燥する肥沃な深層土を好み、尾根筋またはこれに接する斜面に多い。浅根性で煙害、大気汚染、剪定には弱いものの、根株の萌芽力は強い²⁾。材は切削や加工性が良いため家具や建築材に、樹皮はいわゆる樺細工に用いられる。また、花は観賞用として趣深いため、公園や庭園の修景木としても利用価値が高い¹⁾。

一般的にサクラ類の増殖には、つぎ木増殖が主に用いられるが、例えば、病気がないつぎ木用台木を大量に生産する場合、遺伝子攪乱の防止、品種の分化や成因を明らかにするための交配種の育成などの際には実生増殖が必要となる。そのためヤマザクラをはじめとするサクラ類の結実・実生増殖・発芽生理に関する情報はよく蓄積されている³⁾。

ヤマザクラの果実は直径約1cmの球状で、隔年で豊凶作年があり、熟すと黒紫色となる。種子は開花後50~60日が経過すると、外果皮色に関係なく十分に発芽能力を持つ。また、果肉には発芽抑制物質が含まれるため、発芽のためには種子を水洗して果肉を除去する必要がある。このように調整した種子の貯蔵には、短期であれば地中埋蔵か保湿状態で低温(0~3℃)に貯蔵するのが望ましいが、長期の場合は種子の含水率を13~15%に低下させた乾燥状態で低温に貯蔵する必要がある。なお、貯蔵温度は5度以上で発芽する可能性があること、高温あるいは急激な乾燥は発芽率を下げることに注意する必要がある。種子の休眠打破には15℃以下の低温が必要で、特に60日以上冷処理やジベレリン処理により発芽促進効果が期待される。そのため、関東地方の場合、冷処理しない種子では2月上旬~下旬、冷処理した種子では2月中旬~4月上旬がまき付けの適期となる。なお、翌年の発芽を期待する秋まきの場合、夏期の高温害や、サクラ類の種子は大きいため虫害がよく発生することを考慮すると⁶⁾、冷処理していない種子を10月上旬~11月下旬に播種するとよい。

また、果実は結実期である6月から7月にかけては、森林での結実樹種数が少ないこともあり様々な野生動物の食物資源として重要な存在となる^{4), 8)}。一方、ヤマザクラにとっても、これらの果実食の動物の多くが種子散布者として機能することからも⁵⁾、ヤマザクラの果実をめぐる多様な生物間相互作用が存在することが知られる⁷⁾。

ヤマザクラは葉が開き始めると同時に開花し葉桜になるため、花が美しいソメイヨシノに比べ風雅があり、古くから人々にその葉や花が好まれるとともに、文化に様々な影響を与えてきた¹⁾。一方、果実は多くの動物たちに利用されていることから、ヤマザクラは人々や動物にとって無くてはならない存在といえるであろう。

引用文献

- 1) 秋山忍 (2003) サクラ, 林良博・武内和彦編, 現代日本生物氏 8 ツバキとサクラ 海外に進出する植物たち, 岩波書店, pp83-149.
- 2) 橋詰隼人・中田銀佐久・新里孝和・染郷正孝・滝川貞夫・内村悦三 (1993) 図説実用樹木学, 朝倉書店, 214pp.
- 3) 石井幸夫 (1991) サクラのタネの取扱い法, 林木の育種, 161: 7-12.
- 4) 小池伸介・正木隆 (2008) 本州以南の食肉目3種による木本果実利用の文献調査, 日本森林学会誌, 90: 27-36.
- 5) Koike, S., Morimoto, H., Goto, Y., Kozakai, C., and Yamazaki, K. (2008) Frugivory of carnivores and seed dispersal of fleshy fruits in cool-temperate deciduous forests. *Journal of Forest Research*, 13: 215-222.
- 6) 中村仁・林田光祐・窪野高徳 (2006) ツチカメムシの吸汁が引き起こす散布後のカスミザクラ種子の腐敗, 日本森林学会誌, 88: 141-149.
- 7) 竹内将俊・田村正人・飯島一浩 (2005) 桜をめぐる生きものたち, 東京農大出版, 175pp.
- 8) Yoshikawa, T., Isagi, Y., and Kikuzawa, K. (2009) Relationships between bird-dispersed plants and avian fruit consumers with different feeding strategies in Japan. *Ecological Research*, 24: 1301-1311.



山の中に点々と位置し、開花するヤマザクラ



山の中で開花するヤマザクラ



多くの果実が結実している様子



果実の外果皮色の変化



テンの糞に含まれた種子